

飯館村における将来世代への復興知継承に向けた 教育研究プログラム

採択大学等名

東京大学

連携市町村名

飯館村

取組概要

東京大学の飯館村での取り組みは、「復興知」事業補助金を財源として東大むら塾飯館部（2015年発足、2019年飯館村で活動開始）、東京大学飯館村ホッププロジェクト（2022年発足）という2つの有志学生団体が主体的に行っています。（代表 東京大学大学院農学生命科学研究科 特任教授 溝口勝）

東大 むら塾

TODAI MURAJUKU

東大むら塾飯館部

東大むら塾は「農業×地域おこしでむらの未来を変える」をコンセプトとする学生団体です。「復興知」事業初年度の2019年以降、継続的に訪問して多面的な活動を行い、村民と交流し村の歴史や風土を知り、発信しています。

初めは飯館村で農地をお借りして村民とともに蕎麦栽培に取り組み、蕎麦を用いた交流会を開催しました。

その後は村を知り発信する活動を展開しました。村民や移住者取材してまとめた「いいたてむらびとずかん」「むらびとずかん2」を制作。村の基幹産業である林業取材・体験し、動画を制作して広報。村の20の行政区のうち10区の歴史、文化や震災の影響取材し「いいたて行政区ずかん」を制作。現在は残り10区を扱う「行政区ずかん2」を制作中です。



東京大学飯館村ホッププロジェクト

2022年冬から始まった当プロジェクトでは、福島県飯館村の耕作放棄地を活用し、ホップの栽培や、オリジナルのフレッシュホップビールをはじめとした地域産品の開発に取り組んでいます。また、村の祭りやイベントにも積極的に参加し、地域の方々との交流を深めています。

活動の目的は、震災と原発事故からの復興へ貢献することです。新たな産業や地域ブランドの創出を目指し、IoT技術を活用しながら、事業者・村・大学が連携することで産官学の新しい枠組みを築き、取り組みを通じた地域活性化と関係人口の創出を図っています。

これまでの成果

制作した3つの「ずかん」冊子は村内数か所の施設に設置していただき、村民や来訪者の手にわたり、飯館村の魅力や文化を伝える資料となっています。

福島大学農林サークル・株式会社サガデザインシーズと共同でいいたて村の道の駅までい館で花壇を整備し、村のにぎわい創出を図っています。

飯館村で活動する他の学生と交流し、情報交換をする機会として2022年9月に飯館村学生サミットを実施。義務教育学校の学童での交流や村内施設でのイベント開催を通し、多様な村民やプレーヤーとの交流をしています。

写真：上から順に村内散策の様子(2023年12月)。行政区長への聞き取り(2024年4月)。道の駅花壇での福島大の学生との共同作業(2025年4月)



収穫したホップを用いた、オリジナルフレッシュホップビール「IITATE ReCRAFT」を活用して、飯館村内の賑わいの創出と、対外的な飯館村の周知を行いました。

具体的には、完成お披露目会の開催や、いいたて秋祭りへの出品、飯館村の道の駅までい館での販売を行ったほか、東京大学生協や東京大学の学園祭である五月祭での販売を通じた広報活動を実施しました。



写真：上から順に完成お披露目会(2024年10月)、五月祭出店(2025年5月)

今後の展開

今秋の「行政区ずかん2」制作事業をもって、村を取材し伝える活動は区切りを迎えます。

昨年より取り組んでいるニホンミツバチの養蜂、今年度新たな取り組みとして始まった村民のお手伝い・生活体験、村の特産品であるナツハゼを用いた菓子製作や村の木材を用いたおもちゃ作りなど、現在は取材という形にとどまらず村の生業を体験し伝える活動を展開しています。

写真：上から順に、村民から教わりながら蜂の巣箱を製作(2024年4月)。村民の生活体験として食卓を共に囲む(2025年3月)



今後に向けては、生産量の拡大と、地域の方々との新たな交流機会の創出という、2つの目標を掲げております。

具体的には、飯館村内の耕作放棄地を選定し、作付面積増大に向けて検討を行っているほか、本年9月中に地域の方々を巻き込んだホップ収穫イベント・交流会を開催する予定です。



写真：上から順に「IITATE ReCRAFT」、耕地拡大(2025年4月)